

次月活動予定

3 月

- 1 日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
4 日 広域連携会議 アディクションフォーラム実行委員会
6 日 再乱用防止教育事業県北
7 日 県南家族会
8 日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導 合同研究成果報告会
9 日 家族教室 再乱用防止教育事業県央
11 日 東京保護観察所プログラム
12 日 宇都宮保護観察所プログラム アルコール関連問題研究会
14 日 県北家族の集い ダルク女性ハウスセミナー
19 日 栃木県薬物依存症対策推進委員会 再乱用防止教育事業県南
21 日 再乱用防止教育事業県庁
22 日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
25 日 足利更生保護女性会講演
28 日 宇都宮保護観察所プログラム 再乱用防止教育事業栃木県精神保健福祉センター
31 日 ASC トチギ家族会

4 月

- 3 日 再乱用防止教育事業県北
5 日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
8 日 東京保護観察所プログラム
9 日 宇都宮保護観察所プログラム
12 日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
13 日 家族教室 再乱用防止教育事業県央
18 日 再乱用防止教育事業県庁
19 日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導
25 日 宇都宮保護観察所プログラム 再乱用防止教育事業栃木県精神保健福祉センター
26 日 喜連川社会復帰促進センター薬物依存離脱指導 治療共同体研究会
28 日 東日本盲導犬センターふれあいデー

編集 特定非営利活動法人栃木 D A R C

〒320-0014

栃木県宇都宮市大曾 2-2-14 形松ビル 3F

TEL 028-650-5582 FAX 650-5597

URL <http://www.t-darc.com>E メール:nesm@t-darc.com

発行所

郵便番号一五七―〇〇七二 東京都世田谷区祖師谷三―一―一七―一〇二号
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会

定価 100 円

SSKO

栃木 DARC

ニュースレター 第 191 号(2018,2,28)

、

Grow up!!
Drug Addiction Rehabilitation Center
DARC

本部移転決定！

特定非営利活動法人 栃木 DARC
代表理事 栗坪千明

寒い日が続いておりますが、皆様におかれましては、元気でお過ごしでしょうか。
栃木ダルク利用者さんたちは、この時期とても落ち着いてプログラムに取り組んでいるようです。
少し寒いくらいの方が日本人は集中できるのでしょうか。

さて、今回はみなさんにお知らせがあります。急ではありますが来月の 4 月いっぱいをもちまして
ここ大曾にあります栃木ダルク本部ならびに 3rd Stage Center が移転する運びとなりました。ここ
2 年ほど不動産屋さんや銀行さんなどと打合せを重ね、ようやく良い物件を見つけることができ、つ
い先日引渡期日が決まりました。

今度の施設は十分なスペースを確保でき、様々な事業を予定しております。その概要を大まかにお
知らせしたいと思います。

まずは元々の事業であります。社会復帰事業（プログラムの最終段階）、これは自立訓練施設として
市の認可を予定しております。次に県事業として再犯防止推進事業も一定のスペースを確保します。
また 10 月からはギャンブル依存の回復支援事業も新たなプログラムをその時期に合わせ開発し、運
営していきたいと思っています。なかなか一般市民の理解が進まないこととは思いますが、新施設に
入る人たちは一定のプログラムを終えている人たちなので、地域貢献もしていくつもりです。これま
でにない都市型のダルクを作っていきたいと思っています。場所は宇都宮市内です。後ほど HP に
場所は記載いたします。別紙にも記載いたしますが、まだ補助金等は受けておりませんので、資金面
において不安がありますので、みなさんのご支援を賜われるととてもありがたいです。よろしくお願
いします。

5 月からは新施設で新たな事業が開始されることをとても楽しみにしております。より良い回復支援
のあり方もここで生み出されていくことと思います。

今後ともみなさんのご支援をよろしくお願いいたします。

変化

ピースフルプレイス

栃原　タ子

寒さも少しずつ和らぎ、春の気配を感じる季節になってきました。
ついこの間お正月だったのに、もう 2 ヶ月も過ぎたね・・・と、最近施設の中でよく話されている会話です。そのくらい、時間の流れを早く感じています。
この時期、学校では卒業や入学。職場では就職や異動。引越しも多い時期。桜の花が満開になることも、綺麗だけれど何となく寂しい。花粉症も最近は酷くて憂鬱さしかない。
そんな状況も気持ちも、ざわざわと揺れ動く時期を迎えようとしています。

今、女性施設では 14 名の仲間がプログラムに取り組みながら生活を送っています。ステージもそれぞれで、入寮期間も差があります。
日々の生活の中で問題が起これば、全員で話し合って解決策を考えていく。そして、自分たちで評価し合い、次の課題について考えていく。最近は、その流れが少しずつ出来てきたのかなと感じています。発言をすることに自信がない人も、できるだけ関わりたくないと思っている人も、率先して発言をしている人も、いろいろな思いを持って話し合いをしてもらいます。
その流れを続けながら 1 人ひとりにも変化が見えてきて、捉え方も伝え方も変わってきて。
話し合う時に受け持つ役割も仲間の中で引き継がれ、否定的な考え方しか持てなかった人が、半年、1 年後には皆をまとめる側として話を進めている。ダルクは不思議な場所だなと思います。
こういう時、時間だけが過ぎているのではなくて、皆が変わっていつていることを感じます。
時間の流れ、周囲や状況の変化を大きく感じやすい私たちは、自分自身の変化に目を向けることはあまり上手ではないです。私自身にも言えることですが、仲間との生活やプログラム、役割を通して、もっともっと大袈裟なくらいに自分の変化を感じられるようになることを 1 つのゴールにしてもいいなと思っています。

自分の話になりますが、10 代で中途退学をした高校の卒業資格を取るため、3 年前から通い始めた通信制の高校を 3 月 3 日に卒業することができました。編入学を決めた時、実際に通い続けることの難しさを感じて 1 年間休学をした時、少し気持ちを変えて通学を再開した時、そして、卒業が決まった時。この 3 年いろいろな気持ちを抱え、自問自答しながら通い続けて終わらせることができました。最初の目標だった高校卒業の資格取得ができたことよりも、その間、考え感じることで得られたものが多く、それは私にとって貴重な時間で自然と感謝をしている自分がありました。なぜ、10 代の時に高校を続けることをしなかったのかも、今の年齢になって通うことで見えてきたことがたくさんありました。私がこれからの回復を続けていく中で必要なことが与えられたと、それも良かったと思っています。

見栄とプライド

依存症の TAKA

今回、筆を取らせていただきます依存症のタカです。いつの間にかニュースレターを書くのも 4 回目となり、今年の 5 月で入寮 4 年目を迎える古参になってしまいました。また、おかげをもちまして、2018 年 5 月 11 日で入寮するきっかけにもなった医療観察法の通院処遇も無事終了しました。現在、就労移行支援事業所に通いながら社会復帰を目指しています。こうした機会を頂かないと、話すことのできない現在の心境を書いていこうと思います。

去年の 9 月から社会復帰を目指して就職活動していましたが、実を結ぶ事ができず、社会の現実と自分の思惑が一致しない事に苛立ちを感じ、今まで自分がしてきたことを全否定されたような気持ちになっていました。それが原因で、社会復帰に対する意欲が下がっていく事が嫌でしたが、どうしていいか分からず悩んでいたところ、施設長の提案もあって、就労移行支援事業所に通いながら社会復帰を目指す事を選択しました。施設のプログラムを何度も振り返っている事に慣れすぎていたので、事業所で受けるカリキュラムや通所している人たちとの交流がとても新鮮で楽しく、鬱蒼としていた気持ちを切り替えるきっかけにもなりました。そして、入寮生活やプログラムが役に立っている事も、新たに関わる人間関係の交流を通して実感する事もできました。現在、通所してから 5 ヶ月ほど経ちますが、自分の欠点や課題は、場所や人が変わっても変わらないという事態に直面します。これが自分の身の丈だと思うと、すごく自分を傷つけたくもなるし、内外に疑問符ばかり浮かび上がって、何でこんなに疑問に思う事が多いのか自分でも分からなくなる時があります。施設で行うエンカウンターというプログラムで、情報が自分に入ってくるたびに「困った」と思うってしまう傾向が強い事が、仲間との振り返りを通して知る事にもなりましたし、話をする「タカらしい」と言われた時、すごく恥ずかしい気持ちになり、謝りたくもありました。自分が「困っている」と認識する事が、今まできつと周囲を困らせていたに違いないと考えて、どこから修正していけばいいのかわからない事に「もう手遅れなんじゃないか」と理由をつけようとして、人と関わるのを極力避けようと、できもしないことを考えてしまいそうにもなっていました。そういう時にこそ、必要なのが施設のプログラムや自助グループのミーティングでした。何をすることにも意味や結果を求めてきた過去の人生とは違い、自分の内面を話すことで分かち合えたり、仲間の話を聞くときの態度や思考で、自分の状態を確認できたりすることが、物事を複雑に考えて思い込みを増やしてしまうクセのある自分にとって、重要なことだと再確認しました。自助グループにつながって、3 月で 5 年になります。最初はサービスを受ける側でしたし、仲間との関わり方と同じように、深く関わってしまうと離れるときに寂しくなる事ばかり想像していました。考え方が変わったのも仲間の姿勢からです。社会復帰が間近な仲間が「今しかできないから」と言ってサービスをしている姿を見て、僕は心の中で「サービスに関わっているから、なかなか社会復帰ができない」と思っていたので、自分の考え方がとても恥ずかしくなりました。そんな自分も、社会復帰を優先しないといけないので、頂いたサービスを仲間に手渡しています。

その過程が実は、とっても寂しいです。でも、そう思える自分になるまでサービスに関われた事が、何よりの成果だと思っています。いざという時に、素直になれないところが自分の大きな欠点ですが、施設のプログラム、事業所のカリキュラム、自助グループのサービスを通して、たくさんの人の温もりの中で生活を送れています。不満を言う時ほど感謝に満ちた生活を送っている事に気づけないあまのじゃくですが、本当は、口に出せないほど感謝しています。こんなオレでごめんなさい。

薬物の恐ろしさ

依存症のセキッパ

こんにちは。栃木ダルクに入寮して 1 年 5 か月を迎えたセキッパです。僕は 14 歳でお酒を覚え、16 歳で先輩に覚せい剤を教わり使っていました。

僕は飲酒すると喜怒哀楽が激しくなり、楽しい時は笑っていますが何か気に入らない事があると暴言を吐き、時には暴力をふるっていました。飲酒した僕は気持ちが大きくなり薬物欲求が強くなるので、酔った状態で車を運転し、覚せい剤を買いに行っていました。

10 代の頃は、たくさんの友人達と覚せい剤を使って楽しんでいましたが、成人式を迎える頃になると、友人達が大人としての自覚を持つようになり、考え方が変わっていき、次々に覚せい剤から離れていきました。僕も便乗して何度も覚せい剤をやめようと試みましたが、やめられませんでした。そんな自分を、意思が弱い人間だと思っていました。一緒に覚せい剤を使っていた友人達も「早く断ち切りな」と軽く笑ってくれていたの、僕も軽く聞き流していました。

20 代後半になると、次第に覚せい剤使用を隠すようになりました。言えない空気が変わってきたんです。友人達は薬物を使いながらも、仕事の夢・目標を持っていて、成人を迎えて薬物を断ち切った友人達は目指す目標に向かい、一歩ずつ進み、やがて独立し、会社を設立していきました。この頃から薬物中毒の僕は、友人達から煙たがられるようになりました。友人達は、自分にプラスになる人とししか付き合わなくなり始めたんです。今思えば覚せい剤使用はバレていなかったの、酒癖が悪いことと、人間性に欠けていたのだと思います。

しばらくしてこんな僕でも彼女ができ、結婚し、一戸建てを購入し、笑いの絶えない幸せな家庭を持つことが出来ました。結婚当初は覚せい剤を使わずにいました。もう覚せい剤を断ち切ったと思いました。ところが、順風満帆だった生活にマンネリし始め、徐々にこの生活が苦痛になって行き、毎日の晩酌の量も徐々に増え、何も悪くない嫁にちょっとした事でキレていました。そんな生活をしていたある日、覚せい剤をひける知人に偶然出会い、お酒に酔っていた僕はすぐに飛びつきました。数年ぶりに使う覚せい剤は刺激があって最高でした。ここからまた薬物人生が始まりました。僕は小遣い制だったので、1・2 か月に 1 回のペースで使っていましたが、依存症の病魔は早いスピードで僕の体をむしばんできました。次第に薬物欲求が入る頻度が多くなり、欲求の強さも増してきて、再使用してから数か月でこの欲求をおさえることができなくなり、銀行、消費者金融から借金するようになりました。この頃には家庭を顧みなくなっていました。そんな生活も長くは続かず、嫁に愛想を尽かされ離婚されました。嫁に支えられていた薬物中毒の僕は、一人での生活もままならず会社を辞め、数か月で借金は 400 万円、家のローンも支払う能力が無くなり自己破産をし、すがる思いでダルクに助けを求めました。覚せい剤のクリーンは約 1 年 5 か月ですが、まだ薬物欲求は入ります。依存症とは一生戦い続けなければなりません。人生の再スタートを切る、もう一度家庭を持ちたい、そう決意してダルクに入寮したのに薬物の欲求に耐えられず、わずか 3 か月で脱走し、覚せい剤を手に入れる為に窃盗をし、逮捕されました。

普段の僕は絶対に窃盗をしません。仲間、友人、元嫁から言われてきた僕の性格は、優しい、穏やか、真面目、いい人などと印象を持たれます。そんな僕でも覚せい剤を手に入れる為には手段を選ばなくなります。薬物は人格を簡単に変えます。家族、友人など、自分に関わる人達を失います。精神崩壊します。薬物の気持ち良さを知れば、誰でも中毒になる可能性が非常に高いです。薬物の気持ち良さを素面では味わえませんが、知ってしまったら素面の人生が苦痛に感じる可能性が非常に高いです。今でもこれから先、一生薬物を使わないで生きていけるか自信がなく不安です。依存症とは本当に恐ろしい病気です。

これからの人生

アディクトのテツ

皆さんご無沙汰しております。依存症のテツです。今回 3 回目のニュースレターを書かせて貰っております。

私は現在、クリーンが 1 年と 6 ヶ月を過ぎまして施設生活に対して、慣れてきたこともあり今までは生活に対して否定的だったのが今では肯定的になれてきたことに驚いています。初めの頃はミーティングで良い話ばかり言っていれば良いと思っていたのですが、自分が感じたことを話せばいいんだと思い素直に話が出来るようになりました。最初の頃と比べると大分考え方が変わってきたと思います。仲間の話に耳を向けることも無かったし聞き流していた事が多かったのですが話が聞けるようになりどういいうことが必要で改善したほうが良いとかが分かるようになって来ました。現在は野木 2 sc で生活していますが、プログラムが初期施設よりも多く、色々考えさせられることも多いので本当に勉強になっています。初期施設の頃はプログラムの最中に眠くて寝てしまった事が多くありましたがそれも無くなってきて私なりにプログラムに対しての姿勢が変わってきました。場所が変われば最初から気持ちも入れ替えて一から教えてもらうと言う考えも出てきて分からないことは聞くと言うあたり前のことが恥ずかしくも無く、かっこ悪いことでもなく感じられるようになってきました。何よりも自分が教わったことを新しく来た仲間に伝えていかなくてはいけないと言う責任感も出てきました。3 ステージのプログラムにも積極的に自分の思っていることが言える様になり物の受け止め方とか感じ方とか私なりに成長出来てきているように思えます。施設生活が長くなるほど社会へ出てからの不安は増してきますが、居心地が良くなってきて今の生活が充実して来ました。色々な役割をやらせてもらうことによって大変な時もありますが自分に自信がついた事もありますし結果的にこういう生活を通して良かったと思えるようになって来ました。施設生活を通し今まで出来ていなかったことが出来るようになってくると楽しいと感じたり自分の感情が素直になってきました。楽しいことばかりではなく苦しいことや悲しいこともあります。そういう感情を乗り越えて行けることで少しずつではありますが成長できているんだなあと思えることが多くなってきましたし、これは自分にとって感情の変化を感じています。まだ施設の生活はこれから長くなると思いますけど悪い癖や病気を受け入れて克服していけるように先を急がずやっていきたいと思えますし簡単なことで無いことはわかっているの、時間を掛けていきたいと思っています。先行く仲間や新しく来た仲間に気づかせて貰った事は大切にしていきたいと思っています。生き方が変われば生きづらさもとれると思えますし、今まで薬やアルコールに頼ってばかりいて自分の感情に膜を張って現実を回避してしまうことも、これからの人生で変えていきたいです。ここでのプログラムも新しいものが導入されてきていますがそういったものに否定的にならずに取り組んでいきたいです。過去を思い出すとマイナスの気持ちだったものが多く、そのため苦しかった思いがありました。今はそれほど昔の感じはしませんので変えるなら自分は依存症じゃなくて薬の後遺症だとばかり自分に主張して生きてきましたが認めることで安心できるようになってきました。社会にいたころ、どうなってもいいと自暴自棄になったことも本当に多くてこれまで自分を大切に出来ずに苦しい思いをしてきましたが、そういう気持ちを無くしてこれから生きて行きたいので頑張りたいですけど力みすぎて頑張らないように、それと自分が潰れないように努めていきたいと思っています。長々とお付き合い下さりまして有難うございました。これから、まだまだ寒い日が続きますが皆様お体にはくれぐれもお気をつけてお過ごしください。失礼します。

願わくば…私の旅路

依存症のブッチャー

初めまして。ブッチャーと申します。よろしくお願い致します。

今年の1月22日、刑務所を出所しました。その足で那須1sc.に入寮しました。栃木ダルクに入寮する決意が遅れ、仮釈放が遅れたのです。入寮して1ヶ月。那須での生活も、少し慣れてきたところです。

思春期の私は、とても太っていました。それなのに、不思議と運動は得意だったのです。落ち着きの無い子供といいいますか、いつも馬鹿な事ばかりしていました。どんな事をしていたかといいますと、当時人気のあったプロレスラー、アブドラ・ザ・ブッチャーさんの真似ばかりしていたのです。アノニマスネームのブッチャーは、その頃からのあだ名でもあります。

特に小中学校時代は、学校中の人気者だったと感じます。たくさんの友人に囲まれ、充実した毎日を過ごしていました。ところが、私の家庭環境には問題があったのです。父が雇用していた職人さん達が、実家に一緒に住んでいたのです。それだけなら、特に問題はないのですが、毎夜、毎夜、酒を飲み暴れ喧嘩が起こります。トラブルばかりの毎日。とても怖かったです。とは言っても、みんなとても可愛がってくれたことも記憶に残っています。その様な大人の中での生活だったからか、随分とませた子供だったと思います。

高校生になると、音楽に夢中になります。ロックが好きで、好きなミュージシャンがドラッグに溺れていることを知り、ドラッグに魅力を感じる様になりました。憧れているスターに近づきたいからだったのでしょうか。今になるとわかりません。それから、私はドラッグを手に入れたい渴望に襲われ、夜の街を彷徨いました。ドラッグと巡り合うのに時間はかかりません。当たり前のようにドラッグを手に入れたのです。その後は、ご想像の通りです。更なる強い刺激を求め、ドラッグの量は増えていきました。

25歳頃のある日、とある街の2丁目で知り合った方がいました。その方がきっかけとなり、覚せい剤と出合います。私にとって覚せい剤は、運命の出会いであるかのような、とても強烈な刺激でした。覚せい剤と出合うために生まれてきたのではないかと、その様な馬鹿なことを本気で思ったのです。

このドラッグさえあれば、他に何もいらないとさえ思ったのです。

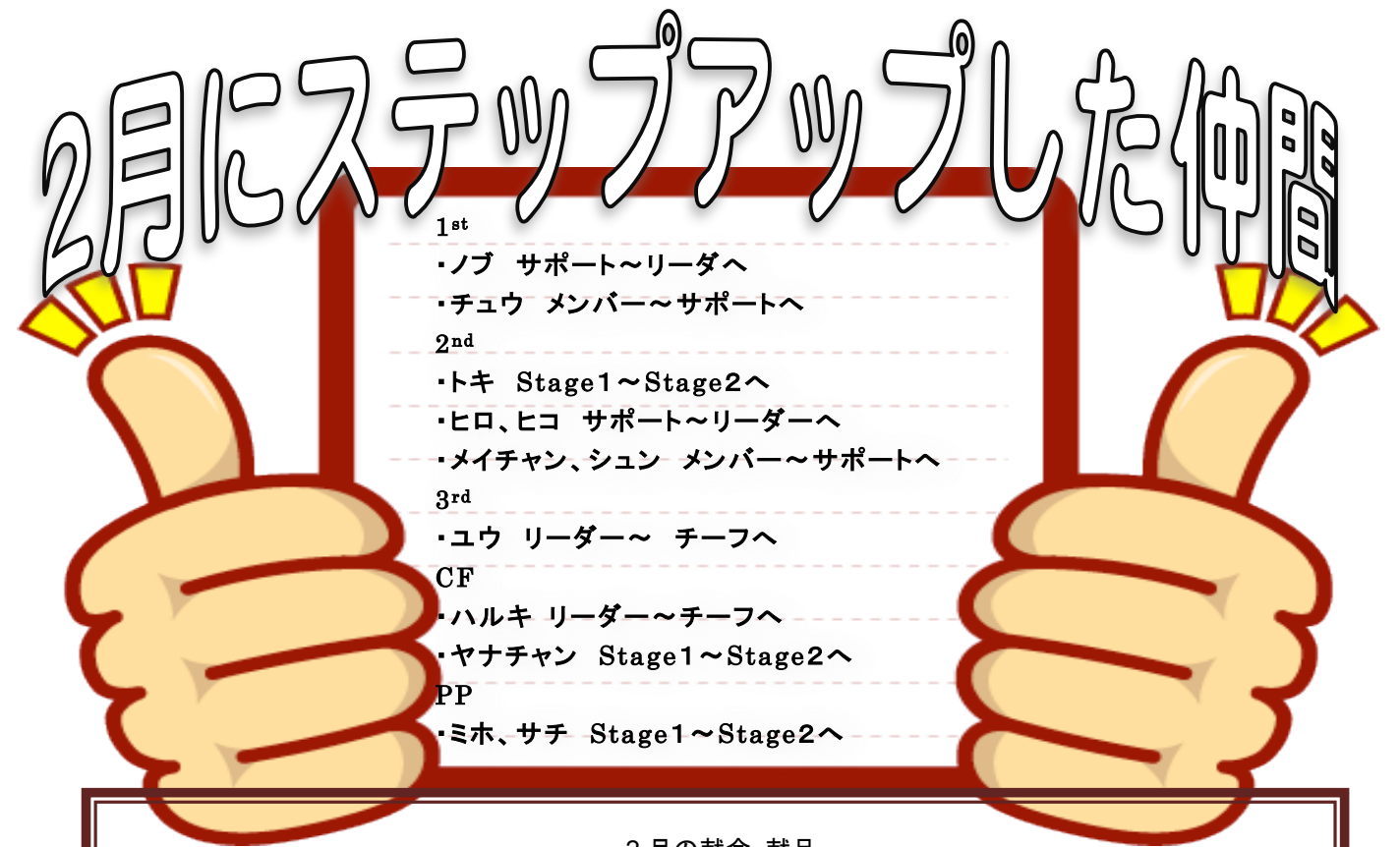
初めのうちは、全てがうまくいっている様に感じました。家族や子供たちとの関係も、仕事も人一倍頑張ったと思います。私自身に問題はなく、ただ、単に、覚せい剤を使っているだけなのだ、と思っていました。その後、勝手な思い込みだと気が付くのですが、気が付いた時には、妻と子供たちは去っていました。私の薬物使用が、知られていたことが判らないばかりか、自分の問題を問題と

現在の私

依存症のアヤ

私は刑務所に入る前に更生施設に入っていました。警察に捕まって刑務所に入って病院に3ヶ月ぐらい入院して、今ダルクで生活をしています。

ダルクに入って2年6ヶ月が経ちました。ダルクを飛び出した事はありません。今は45歳なので、飛び出してもお金も泊まる所もないので分かりきっている事はできず、今に至ります。最初の頃は体力があまりなく、生活に慣れるのにも1年半ぐらいはかかりました。ステージ3は1年でありました。でも、今ここのダルクに来て良かったと思います。私の夢は社会復帰と一人暮らしが夢なので、ここの施設は卒業があるので良かったと思います。今は週に3日作業所に出ていて、将来は週5日行くのが私の夢です。1日1日を頑張り、ここの施設の生活を頑張ったり作業所に行ったりしています。今、作業所通いが半年経ちました。ダルクで卒業していく時までは作業所に通って卒業して、その後は何か昼間の仕事があったら仕事をしようと思っています。自分の悪い事や、やる事などをしっかりやっていくのが今の自分にとって大事な事だと思っています。たまにダルクの生活の中での事の棚卸しをしています。今は1日1日を頑張ってやる事が大事だと思っています。毎日やる気を持って、普段の生活の中で体が疲れたら睡眠をしっかりととり、体が休める時は休んで病気にならないように気を付けて生活しています。ここのダルクに来て良かったと思います。薬物も刑務所での5年と病院の3ヶ月とここのダルクの生活で薬物やアルコールを飲んでいないので、今はそんなに薬物がやりたいとか、アルコールが飲みたいという欲求がありません。昔は水商売を若い時からずっとやってきたので、昼間の仕事はあまりやった事がなく、今は作業所に通っている方が気が楽です。これから週5日行くのが自分の夢なので、体が昔のように回復できれば良いと思います。薬物をやってきても周りの人達に感謝だなと考えています。昔は水商売で仕事をしてきたので、昼間の仕事は苦手です。今までは更生施設や刑務所などで生活してきて、今45歳でもあるのに、これから週5日作業所で仕事出来る体に回復できるので良かったと思います。私は、父親は亡くなり、母親と弟が居ますが、外で待つ家族も子供も居ないので、今はあまり考える事がなく、親もここのダルクに居る事も知っているので、ここを卒業したら手紙を書こうと思っています。それが一番の親孝行かなと思っています。親は薬物を使ったり刑務所に行ったりして今は勘当の身なので、手紙のやり取りもしてくれませんが、私は親元で生活していても1人で生活をしていかなければいけないので、ここのダルクで生活して頑張って自立していこうと今は一生懸命です。私はフラッシュバックもなく、あまり過去の事は普段考えず、ここのダルクの生活の中で身近な人達が色々と応援してくれているので、卒業して夢の一人暮らしと社会復帰ができれば周りの人達に感謝して、これから先ダルクを卒業しても作業所や仕事を続けてやっていくのが大事な事だと思っています。そうして作業所や仕事をする事で、自分が立派になり周りの人達も良い人間関係が作れると思っています。そうすればいい人達とお付き合いが出来るとしています。今は45歳でもあります、ここのダルクを卒業していい男性に巡り会えて結婚が出来れば良いと思っています。私には今はここのダルク生活では外に待つ家族や子供がいないので、そんなに考える事なく自分自身の頑張り次第で一人暮らしや社会復帰が出来るとしています。ここのダルクの生活から卒業してから1人で生きていくので、卒業してから自分の問題だと思っています。今は1日1日をやる気を持って生活を続けたいです。



- 1st
・ノブ サポート～リーダーへ
・チュウ メンバー～サポートへ
- 2nd
・トキ Stage1～Stage2へ
・ヒロ、ヒコ サポート～リーダーへ
・メイちゃん、シュン メンバー～サポートへ
- 3rd
・ユウ リーダー～ チーフへ
- CF
・ハルキ リーダー～チーフへ
・ヤナちゃん Stage1～Stage2へ
- PP
・ミホ、サチ Stage1～Stage2へ

2月の献金・献品

（献金） 匿名者4名様

（献品）フードバンク様、他匿名者2名様

とても助かっており、栃木ダルクー同感謝しています。

献品のお願い

- ・修了予定者がこれからも数名いるので、日用品、家電一式、原付バイク、自転車、その他自立して使用できるものがあればよろしくお願いします。
- ・事務用品（中古パソコン等）、あればよろしくお願いします。
- ・1st StageCenter からソフトボール用のグローブ、用品よろしくお願いします。
- ・CF から農機具関係（草刈機、農作業用品、トラクター）等あれば宜しくお願いします。

お知らせと一言

- ・3月に入り朝夕はまだ寒いですが日中は暖かい日があり春の訪れを感じさせる今日この頃、皆さまにおかれましてはいかがお過ごしでしょうか。3月号から栃木 DARC HO(本部)3rd Stage Center の移転に伴う献金をお願いいたしますので、皆様のご協力よろしくお願いします。

編集 秋葉

認識することも出来なかったのです。

その後ドラッグの使用は止まりません。当然ながら使い続けます。一時的にドラッグが止まったことはありますが、長くは続きません。ふとしたきっかけで、再使用。新しい出会いがあっても、ドラッグの使用は止まりません。止める気がそもそもなかったのか、止められなかったのか…底なし沼の底へ、どんどん落ちていく感じがとても怖かったです。自分はどうなってしまうのだろう…と。底冷えがする思いでした。

それからまもなく、今までなかった幻覚、妄想、幻聴に襲われ、何が現実なのか、妄想なのか、判らなくなってしまったのです。ここまで来ると、何も怖くありませんでした。何も感じないのです。恐怖すら感じられないのです。当時、自覚できませんでしたが、今思えば、本当の恐怖だったのだと思います。

その後、逮捕、服役を経て…今に到ります。

正直に申しますと、回復が何か当然ながらわかりません。イメージすら描けません。しかし、ご縁があって那須 1sc.に来たからには、後悔しない毎日を送っていきたいです。

願わくば、いつの日か過去の自分も、未来の自分も好きになれるように。少しずつ、前へ歩んで行きたいと考えています。ありがとうございました。

施設報告

1sc（導入）15 名 2sc（回復）13 名 3sc（後期・社会復帰）13 名
CF（農業）13 名 pp ピースフルプレイス（女性）14 名計 68 名で活動しております。各々の施設でステージ事のプログラムを実施しております。

栃木 DARC HO(本部)3rd stage center、移転に伴う献金のお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、栃木ダルク 3rd stage center 並びに HO（本部）は現在宇都宮の大曾にて施設運営、プログラムや入寮者の生活等賄っておりますが、この度宇都宮の下栗に施設を移転する事に決定致しました。

それに伴い移転費用や中古の物件の為、修繕費用がかかる為、皆様からのご協力、ご協賛を賜りたく存じます。

急なお願いでは御座いますが何卒皆様のお力添えよろしくお願い致します。当面の金額の目標としては200万円を目指しています。

振込用紙を同封させていただきますので、施設支援献金・施設移転献金のどちらかにチェックを入れて頂き金額記載のうえ振込お願い致します。

※ご不明な点に関しましては下記連絡先へお問い合わせください。

問い合わせ先：栃木ダルク 宇都宮 3rd stage center

施設長 大吉 努

TEL 028-650-5582